

## 愛知県環境審議会騒音振動部会 会議録

### 1 日 時

平成 24 年 2 月 9 日（木）

午前 10 時から正午まで

### 2 場 所

愛知県自治センター 4 階 大会議室

### 3 出席者

吉久委員、三品委員、岡田専門委員（那須委員欠席）

### 4 開 会

### 5 渡邊環境部技監あいさつ

### 6 吉久部会長あいさつ

### 7 会議録署名人指名

吉久部会長が、吉久委員自身と三品委員を指名

### 8 議 事

#### （1）交通騒音・振動調査結果等について

資料 1 及び資料 2 に基づき事務局が説明

#### <質疑応答>

三 品 委 員： 自動車騒音について全体的には下がっている。その一方で昼夜ともに要請限度を超えているところがあるが、低騒音舗装などの対策は取られているのか。

事 務 局： どのような対策が取られているのか、建設部局や地元を確認したい。

吉久部会長： 平成 21 年度と比較して、平成 22 年度の自動車騒音が大きくなった地点、小さくなった地点について、原因を調査しているか。たとえば、国道 1 号沿いの豊明市の調査地点では 3 デシベルの増加がみられるが、どのような原因が考えられるか。

事 務 局： 騒音が増減した原因について個別には把握していない。豊明市の調査地点については、名二環の開通により、交通の流れが変化したことが考えられる。

吉久部会長： 3デシベル以上の大きな変化が見られた場合、分かりやすいコメントを付けてほしい。豊明市の調査地点について交通量の大きな変化はみられたのか。

事務局： 交通量の調査は、代表時間帯の10分間と短時間の測定であり、明確な差は認められなかった。

岡田専門委員： 10分間の交通量の調査は人が張り付いて行っているのか。

事務局： 人が付いて交通量の調査を行っている。

吉久部会長： 県営名古屋空港で航空機騒音が全体に上昇しているように見えるが、航空機の発着回数はどうなっているか。

事務局： 着陸回数は、民間の定期便6,000回、定期便以外13,000回、自衛隊13,000回で推移しており、傾向は変わらない。

岡田専門委員： 県営空港の値が上がっているのは自衛隊の影響が大きいのではないか。東日本震災の対応で発着回数が増えたのではないか。

事務局： 3月に地震の救援等により自衛隊機の発着が若干増えている。その増加分は、一時的なものとして測定値からは除かれている。

岡田専門委員： 新幹線騒音の75デシベル対策の調査について説明があったが、この後さらに、75デシベル対策は予定されているのか。

事務局： 今回はJ R東海が国へ第4次対策を完了したという報告があったため、国の依頼を受けて県がその確認のための調査を行ったものである。

J R東海は、75デシベル対策の対象となる民家が出てくれば、新たに対策を講じていくことになる。なお、J R東海からは沿線の適正な土地利用について要望がある。

吉久部会長： 新幹線騒音の稲沢市の調査地点で、平成21年度から23年度までに3デシベルの上昇が見られる。スピードが上がっているのか。

事務局： J R東海と連絡を取り原因を調査して、必要に応じて対策

を求めていく。

## (2) 航空機騒音の新評価基準に係る調査について

資料3に基づき事務局が説明

### <質疑応答>

吉久部会長： 航空機騒音の評価方法による WECPNL と Lden の一般的な関係である 13 という差は、WECPNL が 70 付近でいえるのであって、そこからはずれて WECPNL が大きくなると Lden との差も大きくなると思われる。

三品委員： 新たな環境基準の設定では、たぶん成田や関西空港のような大型空港を想定し、また WECPNL70 付近の騒音が多いことから、そのあたりで WECPNL に相当する Lden の値が設定されていると思われる。そうした考え方が全ての空港に当てはまるわけではない。

岡田専門委員： Lden の測定値にリバース音やタクシーイングなどの地上音のデータは入っているか。

事務局： 録音して実音を確認し、測定を行っているので入っていると考えている。

三品委員： 地上音が問題になることがあるか。苦情は出ていないか。

吉久部会長： P3Cなどはレーダーを動かすため、地上でエンジンを長時間かけっぱなしにすることがある。それを敷地の端で行うことがあるので、苦情になることがある。

事務局： 中部空港でも、夜中にエンジンテストを行うことに対して苦情が入ったことがある。

## (3) その他

資料4に基づき、地域主権一括法による市への事務移譲について事務局が説明

9 西野大気環境課長あいさつ

10 閉会